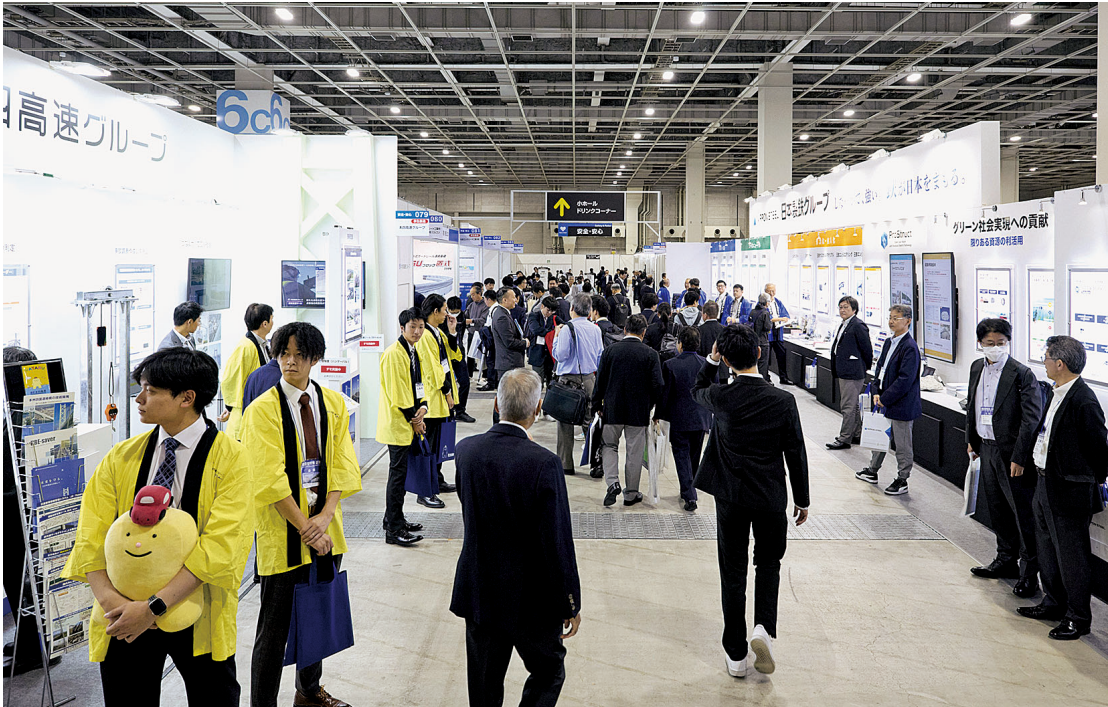


過去最多の239者出展、延べ1.7万人超来場

「ええもん(技術)使こて、ええモン創ろ！」をテーマにした「建設技術展2025近畿」(主催・日刊建設工業新聞社、近畿建設協会)が10月30、31日の2日間、大阪市住之江区のインテックス大阪で開かれた。239の企業・団体・学校が計282ブースを出展し、多分野の新技术や製品をPR。シンポジウムや橋梁模型製作コンテストなど多彩なイベントも行われ、2日間で延べ約1万7500人が来場し、出展者・来場者数とも過去最多となった。

本社
近畿建設協会



来場者でにぎわう展示会場

技術展示

会場は防災、環境、コスト削減、安全・安心、施工、維持・更新、DX・ICT、団体、学校の9分野に分かれ、デジタル技術を駆使した施工・業務効率化や脱炭素化対応など、600超の技術や工法が紹介された。大学や高等専門学校は研究成果を披露し、国土交通省近畿地方整備局、大阪府、土木学会関西支部、日本建設業連合会(日建連)関西支部など行政・関連団体もパネルで活動を紹介した。

シンポ・フォーラム

関西ライフライン研究会の地震防災フォーラム「南海トラフ地震に備えてく」阪神・淡路大震災から30年、大阪府の地震防災最前線」では、大阪府危機管理室防災企画課の遠藤淳参事が「新・大阪府地震防災アクションプラン」のポイントを説明した。続くパネルディスカッションには遠藤参事と奥村与志弘関西大学教授が登場。鎌田泰子神戸大学大学院教授がコーディネーターを務め、阪神・淡路大震災の教訓を踏まえた災害対応力強化策を議論した。

建設コンサルタンツ協会(建コン協)

注目技術賞に安藤ハザマ、エイト日技、レフィクシア
ベストブース賞は阪神高速グループ

関西のインフラ強化を進める会シンポ



22チームが橋梁模型会場製作に挑戦

関西のインフラ強化を進める会(委員長・小林潔司京都大学特任教授)のシンポジウムでは、佐藤樹一郎大分県知事が「大分県広域交通ネットワーク構想」と題して特別講演。小林委員長、齋藤博之近畿整備局長、豊口佳之四国整備局長が「国土強靱化の取り組み」をテーマに意見を交わした。

イベント

NPO法人あすの夢土木(理事長・大西有三京都大学名誉教授)は「今、バズる土木動画コンテスト発表会・表彰式」を開催した。応募22点から選ばれた5作品が発表され、来場者投票と



橋梁模型製作
コンテスト

高知工高定時制が2部門制覇

審査委員会の審査を経て、最優秀賞に建コン協「業界展望を考える若手の会」の『もしも土木がなかったら』を選んだ。近畿整備局主催の「インフラDXコンペ発表会」では、公募で選ばれた16社が先進技術をPR。審査委員会は革新性・独創性・実現可能性を評価し、優秀技術賞に大林組の施工シミュレーター「GEN-VIR」とNIPPONの「アスファルト舗装施工情報一元管理システム」を選定した。恒例の橋梁模型製作コンテストには、会場製作部門に企業や行政、学生の22チームが参加し、支給材料で支間長1.5mの模型を制限時間内(2時間)に完成させた。学生部門には大学・高校から42チームが出場し、支間長60cmの模型を展示。載荷試験では会場製作部門に25キ、学生部門に30キの重りを1分間つるして強度を確認。学生部門は複数の橋梁が壊れる波乱の展開になった。

表彰式



注目技術賞受賞者らに賞状を贈呈

土木学会関西支部と建コン協近畿支部による「関西土木交流発表会」のポスター発表や学生向けキャリア支援も実施され、多くの学生でにぎわった。



業界団体らが学生向けにキャリア支援

橋梁模型製作コンテストでは、会場製作部門の最優秀賞が高知工業高校定時制「YKS」、優秀賞が阪神高速技術「みちリングEx」と中央復建コンサルタンツ「Team-CFK」、学生部門は高知工業高校定時制「AT」が最優秀賞と人気作品賞に輝き、優秀賞に兵庫県立東播工業高校「チーム東播A」と高知工業高校定時制「MRK」が選ばれた。表彰式では、注目技術賞審査委員長の野坂周子近畿整備局企画部長と、橋梁模型製作コンテスト審査委員長の飯塚敦神戸大学名誉教授が賞状を授与した。

